



ヘビが、自分の口より大きい物を飲みこめるのはなぜ

ヘビのあごの骨は、ゆるくつながっている

ヘビは、図のように、下あごの骨の左右が、先の方ではなれています。左右の下あごの骨は、筋肉でつながっているだけです。前後左右に、ぐっと広げることができます。また、上あごの骨と下あごの骨は、特別な二重のちょうつがいのような骨で、ゆるくつながっているため、上下にも、ぐわぁんと、口を大きく開けることができます。

この口の仕組みで、自分の体の太さより大きいニワトリの卵や、ネズミを、まる飲みすることができます。

ヘビの体には、人間のように、胸の骨にあたるものがないので、大きなえさが、口から飲みこまれていっても、皮ふがゴムのようにのびて広がり、長い長い胃や腸で、ゆっくり消化されていきます。

飲みこんだ後のしくみ

飲みこんだえさが、口からおし出されないように、ヘビの歯の先たんは、のどの方向に向けて生えています。ヘビの歯は、ものをかみくだくはたらきはありません。

卵を飲んだときは、飲みこんだ卵を背骨の腹側にあるとときに、体の筋肉を使っておしつけ、卵の殻を割ります。（監修・今泉 忠明）

ヘビの口とあごの骨のしくみ

上下のあごを結ぶ
ちょうつがいのような骨

